

第10章：IT国際戦略と教育

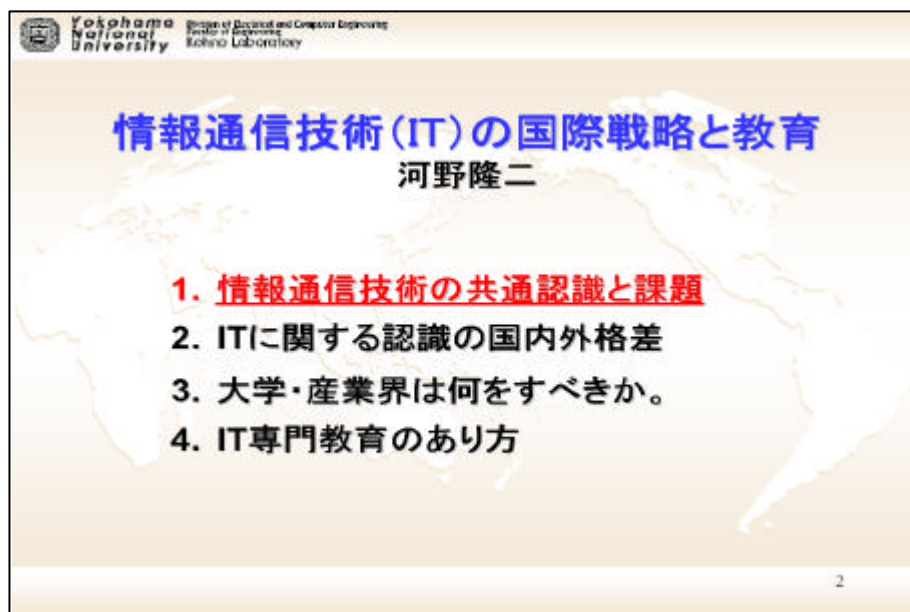
・開催日 2001年9月25日 報告者 河野委員

【河野委員】本日は、「IT国際戦略と教育」というタイトルでお話しさせていただきたいと思います。先ほどの中村先生の奥の深いお話に比べれば、私の話は非常にわかりやすく、かつ、浅いお話で、恥ずかしくと思いますが、ITの分野で研究開発および教育に携わっている者として、私見を申し上げたいと思います。

お手元にはかなりの枚数の資料をお渡ししておりますが、大体それに沿ってお話し申し上げたいと思います。

まず、自己紹介ですが、私自身、ITの分野を専門 ITといっても情報通信という事で、さらには、モバイルIT協議会という事で、移動通信を中心にした研究分野を専門にしております。

図85：情報通信技術（IT）の国際戦略と教育



もう一言申し上げますと、大学の教官ではありますがけれども、民間企業の方も兼業しておりまして、企業の中で、何人かの部下を引き連れて、実際に最先端のITの研究および開発を進めております。ITの企業として、日本で一番有名な会社であります。

さて、今日用意しましたのは、この4つの課題でありまして、タイトルがちょっと大きすぎまして、用意した内容は、必ずしもこの4つに値するようなものではないのですが、手持ちのものを多少寄せ集めて、かつ、何枚かはこのために用意したという状況です。

1番目は、ITというところとどういう話かという事で、特にIT協議会、モバイルIT協議会等々で議論されているような所の共通ベースをまず確認させていただいて、その上で、技術的な課題という事で、先の話を書いております。

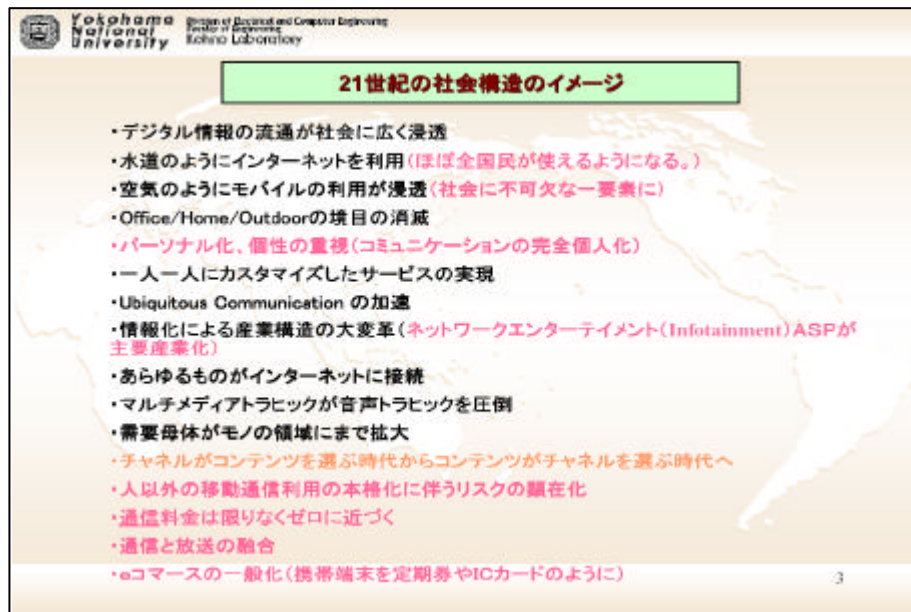
私、この会の趣旨を必ずしも十分理解しておりませんが、どちらかというところ、国策として、IT分野の経済活動、あるいは啓蒙活動といった所に重点を置いておられると理解しておりまして、2番目以降はそういう視点で、つたない私見を申し上げたいと思います。特に、ITにおいて、国内外で格差が随分あるなど。ここ1~2年でグローバル化が随分進んできて、その格差は減ってきてはおります。ただ、日本人の根底にあるものはあまり変わっていないなという事で、決して答えはないのですが、問題を提起する。

3番目は、答えらしきもの、あるいは、私が、大学や産業界での仕事の立場から、こうすべきだろうと考えているところ。

最後は、先端のIT研究・教育ばかりではなくて、ITは一種のイグザンプルであって、いずれポストITだろう、もう既にITバブルは崩壊している、次に何だろうか、そういった新たなITに次ぐものを生み出していく人をどうやって育てていくかといったあたり。前置きだけ大きくて、中身が伴わないので恥ずかしいですが、始めましょう。

21世紀のIT社会

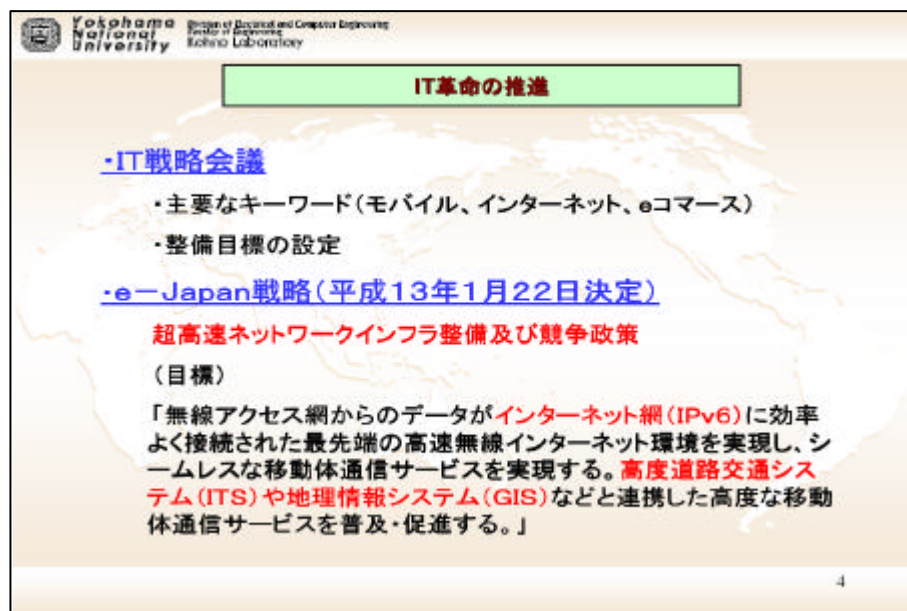
図86：21世紀の社会構造のイメージ



このあたりは共通の認識だと思いますが、21世紀のIT社会ではこんな話題がよく出てくるでしょう。基本的には、ITといっても、私どもが認識しているのはインターネットであり、モバイルである。そういうものが当たり前のように普及する。その中で、世の中、社会を便利にするという1点において、こういったものが価値を生み出して、当然、それに伴う産業活動、経済活動が進んでいく。その中には、必ずしも本当に役に立つものだけではなくて、エンターテインメントのようなもの、心豊かにするようなものもあるでしょうという事です。

皆さん、このあたりはご承知だと思いますので、次々に行くのですが、IT戦略会議があり、e-Japan 戦略がある。これは皆さん、何度も耳にしたり、ご自身でも話題にしていらっしゃるとおりですが、私自身、モバイルIP、ITS、後ほど出てまいりますソフトウェア無線という学会の委員長・会長をしている立場で、意識的にプロパガンダというか、宣伝する所があります。そういった分野が日の目を見ているという立場から、逆説的に、これで良いのだろうかという所も思い当たる訳で、資料はともかく、そういったお話を後半ではしたいと思っています。

図87：IT革命の推進



ITの中でも、まだ可能性が残っているといった方が良いでしょう、必ずしもバブリーで、ブリーリアントであるわけではないのですが、技術的にも、あるいは産業的にもペイすると目されているものがこれらであろう。ブロードバンドであり、ユビキタスであり、ワイヤレスIPであり、ソフトウェア無線。

特にモバイルのイメージとしては、ありきたりではございますけれども、こういったキーワードが重要でしょう。

その中ではっきり色分けしていくと、ネットワーク自体、こういう形で、一つ一つの升(ます)は、現在サービスが行われている通信システム、ネットワークでございます、例えば、こちら辺にあるBRANは、ヨーロッパの方で第4世代と目されている。日本ではMMACとか、色々な放送も含めた通信系SMバンド。

ご覧のとおり、非常にメッシューである。あるいはケーオティックである。統合化といながらも、文化や宗教が違うように、それぞれのニーズ、あるいはそれぞれのダイヤモンドに応じて多様なものが共存する。こういう事はある意味で当然であろう。むしろ統一する事自体が……。少し前に出てきたISDNのようなものは、一つのインフラとしてはあり得るだろう。そういう中で異種のものを統一するものがIP-baseであろう。